



STOP! 介護崩壊 介護ウェーブ推進ニュース —介護ウェーブの“Big Wave”をおこそう！—

シンポジウム企画等で、地域に「介護改善の声」を届け共同した取り組みを確認しよう

週刊東洋経済（2008年12月6日増大号）に「介護1000事例」！

ここまで来た介護クライシス／公的資金投入後の米国経済 費650円

Weekly Toyo Keizai 週刊東洋経済 www.toyokeizai.net 2008.12.6 増大号

介護医療年金

総点検 現地報告

米国は本当に変われるか？

（9つの困難の解説 → ）

昨日発売の「週刊東洋経済」で介護・医療・年金の特集が組まれています。

「必要な医療を受けられず、介護施設にも入れない高齢者、介護の現場では職員の離職や求人難が深刻化し、事業所の閉鎖も始まり、私たちの老後の安心のために何をすべきか、介護・医療・年金を総点検する」というテーマの特集です。

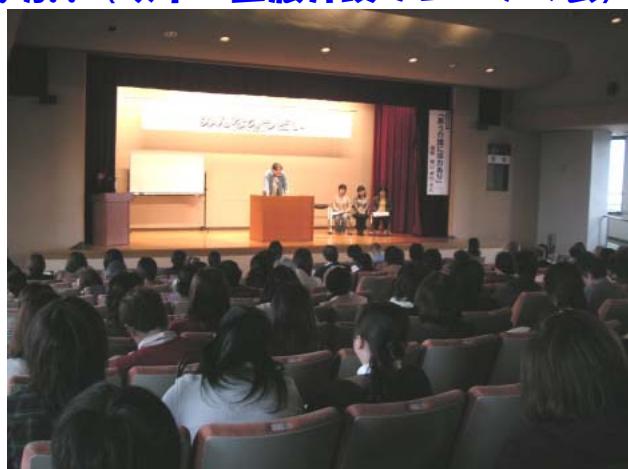
その中で、認知症悪化、入院困難など、厳しさを増す高齢者・利用者の生活の実態について全国の事業所に取材の協力を頂き、「介護1000事例」からいくつかの事例、報告書で示した「9つの困難」の解説等が取り上げられています。

「週刊東洋経済（2008年12月6日号）」を購入し、学習会等で活用しましょう！

利用者・家族・介護従事者みんなが喜べる介護と制度をめざす「みんなのつどい」 ～ほこれる介護の実現のために～ 大成功!! (岐阜・西濃介護ウェーブの会)

7月に西濃医療生協が呼びかけ人となって西濃全域の事業所に声かけし「西濃介護ウェーブの会」を立ち上げました。

会の目的は、①全日本民医連がすすめる介護保険制度改革のための署名の推進ほか、介護の改善を進める取り組みを行うこと。②困難事例や個々の悩みなどを集約して、介護保険制度の改善に必要な現状を共有し、国や自治体に働きかけていく活動を行うこと。③介護利用者・介護者・事業者等、介護に関係する方たちのつながりづくりの3点で、カンパによる自主的な会です。



最初は全日本民医連の介護保険制度の見直し・改善を求める署名に取り組みました。他の事業所の協力もあり、短期間の内に 800 筆を超す署名が集まりました。その後、この介護ウェーブの会の存在や活動をもっと知ってもらうために、参加型のイベントをしたらどうかと、事務所・家族からの声、講演といった内容で参加費 500 円の「みんなのつどい」を計画しました。

西濃地域 250 カ所の事業所にチラシと案内を郵送、ポスターとチラシを 28 事業所に手配りしました。また、岐阜県居宅介護支援事業者協議会は「みんなのつどい」に賛同し、会員事業所 400 カ所に送るニュースにチラシを同封してくれました。取り組み開始から当日まで 1 ヶ月ほどしかありませんでしたが、会員の呼びかけに賛同した人が、友人や仕事仲間に呼びかけるという形で、どんどん広がっていきました。「この活動を市役所担当職員にも働きかけたい」と高齢介護課職員に勧め、参加チケットを売ってくださった民医連以外の住宅改修関連事業者の方や、新聞社支社へ話をしてくれた家族などもあり、新聞 8 社へ全日本民医連のリーフレットもつけて「つどい」のチラシを渡しています。

つどい当日は北風が吹く大変寒い日にもかかわらず180名が参加

当日の 11 月 9 日は、北風が吹く大変寒い日でしたが、遠く美濃加茂市などからも参加があり、介護をしている家族や、介護職員、これから介護職を目指そうという学生など、180 名の様々な人々が集いました。

介護保険制度の改善の必要性と財源など民医連のリーフレットをもとに趣旨説明の後、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所、養成施設教師が、それぞれの部門で抱える問題、利用者さんの困窮した生活の現状や慢性的な介護労働者不足、介護職を選択する学生の減少などについて発言しました。

その後、「笑う介護士」として有名な袖山卓也さんの特別講演「笑う介護に活力あり」を聞きました。介護に携わる者にとってきつい言葉もありましたが、介護保険制度をよくする前に、心をなくした介護労働者が増えては、介護はよくならない、まず介護労働者一人一人が真剣に介護のすばらしさを感じ、自分のスキルをあげて利用者さんに接する、そういうことができて声をあげるべきだ。軍事費が問題だ。介護保険制度に文句を言うのは誰でもできるけど、では、どうしたらいいのか、という具体的な制度案をださないと、反対ばかりしていてもだめだ、など西濃介護ウェーブの会としても、考えていかなければならぬ課題が多く示されました。講演の最後に「ひとりひとりの人生というものを、こういう団体や、活動で支えていけたら良いなと思っています。お互いにがんばりましょう」の言葉に「ほこれる介護」の実現のためもっと頑張っていきたいという気持ちを強くしました。

講演後には、会場から福祉用具関係の方や家族の方から、電動車椅子やベッドの取り上げなどの実情が報告され、制度の問題点が会場のみなさんにも伝わりました。

終了後、アンケートに 54 人が回答してくれました。「自分のやれていないことに気づいた、明日からに生かしたい」など前向きな意見が多くありました。また、「家族との交流会や仲間作り」、「学べる機会が欲しい」などの要望も寄せられ、これらの要望に応えていくための次の取り組みにむけて、これから「西濃介護ウェーブの会」の取り組みをみなさんと議論していく、さらに仲間増やし、つながりづくりを行い、なんでも気軽に話し合え、提案していく会を目指していきます。

(2008年11月28日 西濃医療生活協同組合 デイサービスひのき 佐藤英樹さんより)

お問い合わせは、「**介護ウェーブ推進本部**」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp